

大東市報告

○座長 次の大東市の取組みのご説明にいきたいと思います。

○大東市 大東市の取組みについて説明をさせていただきたいと思います。

大東市では、平成28年度から家庭教育支援チームを設置し、市内12の小学校区を単位としたスクールソーシャルワーカーをリーダーとする民生委員・児童委員・主任児童委員・青少年指導員・市民サポーターで構成する相談・訪問チーム「つぼみ」を編成し、小学1年生全家庭訪問、相談支援活動の実施、家庭教育に関する情報や学習機会等の提供を行うほか、相談・訪問指導を実施しております。訪問に際しては、「子育てガイドブック」の配付や「いくカフェ」の開催企画、参加に向けた声かけをするとともに、保護者の話の傾聴をしていただきました。できるだけ多くの保護者の方に会うことができるよう複数回訪問を行いました。

二つ目に、保護者に対する主体的な学び・育ちに関する親の学習機会、保護者が気軽に一人でほっと一息付ける場として「いくカフェ」の開催を家庭教育支援チーム内で組織的に連動させて実施しております。

三つ目に、福祉部局との連携ですが、平成30年8月に開設した0歳から概ね18歳までの子育てを支援する子育て世代包括支援センター「大東市版ネウボラ」に家庭教育支援として連携しております。スクールソーシャルワーカーを毎日派遣し、就学期の児童の家庭のサポートを行っております。その他に、福祉と保健部門から助産師・保健師・臨床心理士・保育士などを配置し、さまざまな職種が連携しながら事業を実施しております。

続きまして、事業の実施体制ですが、今年度からスクールソーシャルワーカーを3名導入いたしまして、今年度7名体制で進めております。

家庭訪問では、複数回訪問を実施し、1学期は6月から8月、2学期は9月から12月にかけて実施しました。家庭訪問で保護者の方と会うことができたのは、1学期は、912件のうち、842件で、92.3%、2学期は、908件のうち836件で、92.2%になりました。1学期、2学期ともに90%を超える保護者と会うことができました。3学期は、1、2学期とも会えなかった家庭を訪問する予定です。

「いくカフェ」につきましては、学校での開催や地域イベントと連携するなど、地域の特色を活かしながら、1学期、2学期に全小学校区で開催しました。1学期は、保護者が88名、子どもが190名、2学期は、保護者が95名、子どもが443名と多くの方に参加していただき、地域住民や保護者同士のつながりづくりができました。

その他の取組みといたしまして、現チーム員の資質向上や、新たなチーム員の養成を目的に「相談訪問チーム養成講座」を開催しております。また、家庭教育の重要性について、市民の理解と関心を高める機会として「家庭教育支援子育て講演会」も開催しております。

また、入学説明会での事業説明を行い、その後、入学式にチーム員の方に参加していただきまして、チーム員を保護者に紹介をしたことにより、チーム員の認知度も上昇いたしました。

福祉部局との連携につきましては、子育て世代包括支援センターなどと連携し、子育て支援・家庭教育への情報発信の強化を図ることにより、スムーズで切れ目のない相談支援の実現を目指していこうと考えております。

以上で大東市の報告を終わらせていただきます。

大東市の取組みへの意見・質疑

○座長 ありがとうございます。今の大東市の取組みについて、ご質問、ご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

- 小中課 支援につなげるのに情報を共有するところをどのように工夫されるのか教えていただきたいと思います。
- 大東市 大東市の場合、個人情報保護審査会に諮問をかけまして、例外規程として条例に載せて個人情報の共有をしている状況でございます。
- 委員 組織の中では共有してもかまわないということですか。相談訪問チームが学校に対して伝えるということもされていますか。
- 大東市 学校にも情報を出せる状況になっております。チーム員でやられたことに関しては、皆さん共有できるということは、体制として出来上がっています。また、チーム員につきましても、守秘義務を規定させてもらっています。
- 委員 わかりました。ありがとうございます。
- 座長 他にいかがでしょうか。
- 委員 成果について、資料に「内容を工夫したことにより」とあるのですが、どんな工夫をされたのですか。
- 大東市 これはいくカフェについてですが、当初「いくカフェ」を保護者の方に周知したのですが、なかなか集まらなくて、子どもと一緒に来てもらわないと人が集まらないだろうということで、2年目以降、夏休み時期に、小学生に「夏休みの宿題を持ってきて」という形で、お母さんと一緒に来てもらい、子どもたちは、ボランティアで来ていただいた方に夏休みの宿題を教えてもらう。その間に、お母さんたちは、別の場所でカフェをして子育てについて話し合いや意見交換をしてもらうという形でやったり、地域のイベント、祭りなどありますので、祭りの中に一つ催しをつくらせてもらって、回っている途中に寄っていただくという形をとったりして、進めさせていただいている状況です。
- 座長 他にいかがでしょうか。
- 委員 これだけの全戸訪問ですから、それは相当の数の支援員さんにお世話になっておられると思います。具体的に何人ぐらいの方がいらっしゃるのかということも改めてご報告いただきたいのと、その方たちの研修、スキルアップ研修にどのように力を注いでおられるのか、その辺のポイントを教えていただけますか。
- 大東市 まず、支援員の人数ですが、全小学校区で157名の支援員さんがおられます。養成講座も年1回、5回連続講座という形でやっているのですが、それ以外にも「出前講座」という形で、例えばこの地区でチーム員になりたいという人がいるということであれば、そこに出向いて養成講座を実施し、支援員さんになっていただくという形で、今年度で約50人増えております。また、来年度以降もそのような形で進めていきます。
- 研修につきましては、学識の先生に来てもらいながら、スキルアップを図っていくところでございます。
- 座長 あと、全戸訪問から個別支援につながったケースというのがあれば教えていただきたいです。
- 大東市 私が参加した「いくカフェ」の中ですごく印象的だったのが、外国から引っ越ししてこられて、お父さんは日本人で、でも大阪には全然縁がないお家だったのですが、お母さんが片言しか話せない、そこに通訳の方と一緒に訪問させていただいて、「いくカフェ」にもお誘いすると、来ていただいて、地域の人もそのときはたくさん参加していただき、ここでつながってよかったなということがありました。
- 座長 何もしなければ孤立していくことが見えているケースについて、孤立を防ぐ、関わり続けていくという事例だったと聞いておりました。他、よろしいですか。
- それでは、交野市からの取組みの説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。